

東北ヘルプ 国内外の会議一覧

- a. 2012年9月に仙台市で「日韓キリスト者信仰回復聖会」を行い、韓国基督教協議会(NCKC)と福島県キリスト教連絡会の責任者をお招きし、特に金鐘勳師によって「これから福島を中心に未曾有の悲しい出来事が起こる、その場に立ちつくし、そこに行われる神の業を見る証人となること」が参加するすべてのものの責務として確認された。
- b. 2012年9月に仙台市で行われた諸宗教者の共同シンポジウム「原発と憲法九条」の現地実行委員として、核発電所(原子力発電所)はいのちを脅かし、「恐怖と欠乏」をもたらし、「平和のうちに生存する権利」を脅かすもの¹であることを確認した。
- c. 2012年10月に須賀川市で行われた証言集会「福島の震災を語る会」におけるコーディネーターとして、証言の重要性とその神学的解釈の不可欠であることを提言した²。
- d. 2012年11月にインドネシアで行われたCCA Consultation on Ecology, Economy and Accountabilityにて、核発電所(原子力発電所)を巡る問題は環境と経済の問題が相克する焦点を持っており、この問題は周縁化の問題を解決しなければならない難問であって、その解決の鍵は、地域と密着し世界と直結している教会にあることを主張した。
- e. 2012年12月に会津で行われた諸宗教者共同の「原子力に関する宗教者国際会議」の現地実行委員として、現地の人々の声に応答する国際会議でなければならないことを主張し、「核発電所(原子力発電所)と核兵器とはその本質において同一である」ことを会議全体として確認した。またとりわけ張允載師の発表に対して応答し、放射能禍に悩む人々に十字架のキリストを見出した後に「如何に祈るのか」という問が残ることを指摘した。
- f. 2013年3月に東京で行われた「神学国際シンポジウム」において、R. マウ師および中澤啓介師との対話を通して、神義論の課題に「如何に祈るのか」という課題から取りだされる視角を示し、「十字架のキリスト」に加えて「復活のイエス」を語る使命を教会が帯びていることを主張した。
- g. 2013年5月に福島市で行われた諸宗教者共同の「福島宗教者円卓会議」において、公益法人 世界宗教者平和会議日本委員会のメンバーと福島に関わる諸宗教者および避難当事者の声を集めつつ、核発電所(原子力発電所)に対する諸宗教から発表された声明文を集約し検討する必要性を訴えた。
- h. 2013年6月にソウルでNCKCと世界教会協議会(WCC)準備会合を行い、「大都市での被曝」は世界で初めて福島が体験している事柄であり、核発電所(原子力発電所)事故のみならず核戦争に不安を覚えるすべての人々にとって、福島で起こりつつある出来事の証言は貴重な価値を持っていること、とりわけ、その神学的・信仰的な証を21世紀の世界が必要としていることが、確認された。

¹ この鍵かっこ内は、日本国憲法前文から引用。

² この成果を文字に表したものが、『フクシマのあの日・あの時を語る』いのちのことば社、2012年である。